

## 【特集:おらほの農地集積】

「換地と農地集積の一体的推進」 ~ 効率的かつ質の高い農地集積の促進 ~

### かなん3き 河南3期地区



#### 1. 地区の概要

事業名：県営ほ場整備事業（担い手育成型）	担い手農家戸数：個別3名、組織3組織（オベ15名）
関係市町村：石巻市	担い手経営面積（現在）：26.4ha
関係土地改良区：河南矢本土改良区	（計画）：70.5ha
工期：平成13年～平成19年（予定）	農地集積増加率：52.2%（目標：111.5%）
受益面積：95.1ha	農地集積率：51.0%（目標：74.1%）
総事業費：1,490百万円	
農家戸数：115戸	

#### 2. 地区の現状等

河南3期地区は、石巻市(旧河南町)の東部に位置し、一級河川旧北上川と国道45号及びJR石巻線に挟まれた水田地帯で、地区の中央を三陸縦貫自動車道が縦断している。

平成13年度から県営ほ場整備事業（担い手育成型）を取組、平成17年度までに面工事が完了、平成19年度の事業完了に向けて事業推進を図っている。

本事業を契機に、個別担い手農家3戸を育成するとともに、3つの生産組織（曾波神水稻生産組合、本町水稻生産組合、本町曾波神農業生産組合）により、事業地区内の作業を中心とした農業機械の共同利用と基幹作業の受委託を促し、74%という高い担い手への農地利用集積率を目指し、安定的かつ効率的な担い手の育成を図ろうとしている。

農地集積の推進及び土地利用の調整については、河南3期地区アグリセンターと集落ごとの2つの地域アグリセンター（曾波神、本町）が中心となり積極的に活動している。

#### 3. 地区活動の状況

当地区で行ってきた特色ある取組について紹介する。

##### (1) 換地と農地集積の一体的推進

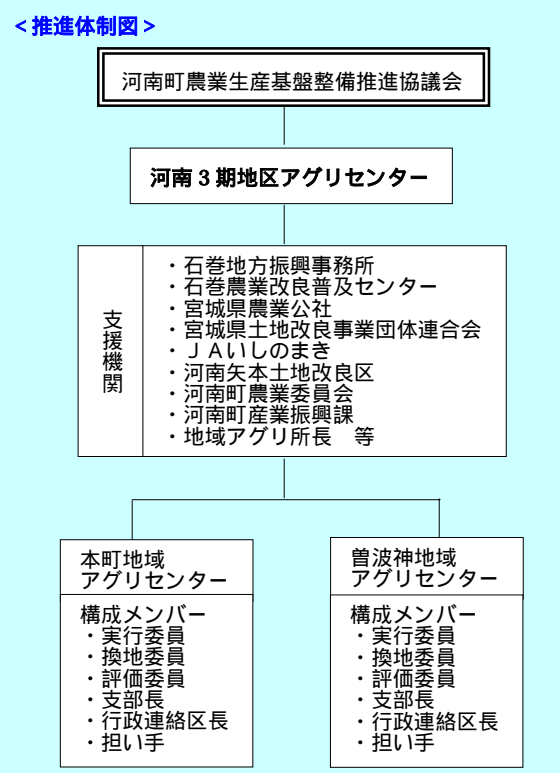
当地区では、従来の現地換地主義ではなく、農地集積を考慮した内容で換地計画を作成することにより、所有権の移動による効率的かつ質の高い集積を促進している。このような換地を活用した集積手法によって、高い集積目標の実現を目指している。

換地計画原案は、平成13年度から検討を始め、面工事開始時には地権者の同意を得た。換地計画原案に則した一時利用地の指定を実施することで、更なる作業受委託が進んでいる。

河南矢本土改良区では、平成8年度に農地流動化支援水利用調整事業の採択を受け、水利用調整等に係る情報整備及び分析を行い、耕作状況等さまざまな情報をGIS（地図情報システム）により管理している。



関係機関による集積戦略会議

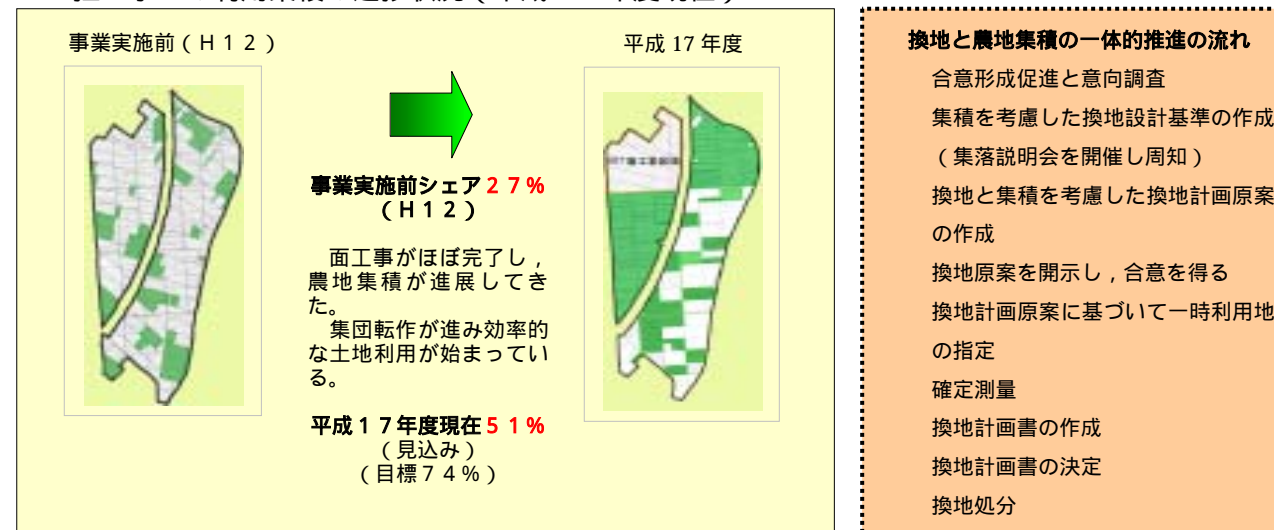


また、農地流動化の一層の推進を図るために、このGISを活用し、地権者に視覚的に説明することが可能となり、合意形成の促進に大きな効果が見られる。

平成17年度現在の集積状況は、面工事の進展に伴い集団転作が行われたことや受委託が進んだことで、着実に担い手への集積が進んできた（H17実績見込51%）。

今後はさらなる集積促進を目指し、地域アグリセンター活動の活発化を図るとともに、面工事が平成17年度に完了することで、まもなく大豆のブロックローテーション転作が導入される予定である。

#### 担い手への利用集積の進捗状況（平成17年度現在）



##### (2) 地域活性化を目指した実践活動

地域住民が主体となり、下記の取組が進められている。

##### 揚水機場調整池を活用した景観形成

地域の景観形成の取組として、地区南端に位置する調整池の植栽活動が行われている。企画段階から地域住民の話し合いを進め、平成17年度にひまわりを300本植栽した。さらに、維持管理面を踏まえ、調整池の法面等約300㎡に省管理型芝生のティフブレア移植の検討を進めた結果、今年度に種子を購入して、畑でティフブレアを養生し、平成18年6月頃に住民参加型で移植を行うこととなった。また、平成18年度には桜の木60本程度を調整池の周囲などに植樹も行う。

##### 田んぼアート

地域に人を呼び、地域経済効果を図る目的で「田んぼアート」の実施が検討されている。平成17年度には、大規模な田んぼアートで全国的に有名な青森県の田舎館村で視察研修を行った。当地区では米の他に、大豆を使った田んぼアートの実施を検討しており、平成18年度からの実践が現実味を帯びている。



河南3期地区調整池の景観イメージ



ティフブレア養生の状況

問い合わせ先  
 水土里ネット河南矢本（河南矢本土改良区）  
 〒987-1102 宮城県石巻市和刈字小金袋三番22-7  
 TEL：0225-72-3183 FAX：0225-72-3873